２０２５年１１月実績概要（メモ）

（２０２５．１２．１８）

エチレン等の安定した生産が続くも、各誘導品類の生産ではやや足踏みが見られる。

１．生　産　動　向

イ）エチレン　４４９，５００トン

前　月　比　　▲０．６％（▲　２，８００トン）
前年同月比　　＋４．９％（＋２０，９００トン）

生産増減に係る諸要因	＜前　月　比＞	＜前年同月比＞
日数増減	▲　３．２　％	－
定修要因等	－	＋　４．０　％
能力増減	－	－
稼働率変動	＋　２．６　％	＋　０．９　％
生産増減率	▲　０．６　％	＋　４．９　％

稼働プラントの実質稼働率試算：前月７６．２％ → 当月７８．２％ ← 前年同月７７．６％
定修プラント：前月　なし　→ 当月　なし　← 前年同月　１社１プラント
２０２５年１～１１月累計生産量　４，６８０．４千ﾄﾝ 前年同期比　＋３．７％

ロ）主な石油化学製品

前月比は、日数の減少や稼働率要因もあり、LDPE、PP、PS、塩ビ樹脂、EG、AN、トルエンなどの１３品目がマイナス。MMA モノマー、BR などの４品目は定修規模差等からプラスとなった。
前年比では、定修規模差や稼働率要因等から、PS、AN、トルエンなどの９品目がマイナス。HDPE、SBR、BR などの８品目はプラスとなった。

２．樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ）生　　産

前月比は、日数減に加えて、定修規模差や稼働率要因もあり、LDPE、PP、PS の３樹脂はマイナスとなった。HDPE のみは稼働率要因からプラスとなった。
前年比は、定修規模差や稼働率要因から HDPE、PP はプラス。LDPE、PS はマイナスとなった。

ロ）国内出荷

消費動向としては、暮らし向き、耐久消費財の買い替えなどの面で持ち直しの動きが続く一方、国内の生産活動は、当月は輸送機械、電気・情報通信機器等で低下が見込まれているほか、トレンドとしても強気とみる面がやや弱くなっている。
汎用樹脂の出荷は、前月の出荷が比較的好調であったとともにユーザー産業の稼働日数減少も合わさり LDPE、HDPE、PP、PS の４樹脂ともにマイナス。前年比でも４樹脂でマイナスとなった。
分野別の出荷状況では、フィルム等の包装材分野は、前年に対して LDPE、HDPE、PP、PS ともに減少した。包材以外の出荷分野では、LDPE、HDPE、PS はほぼ全出荷分野で前年比マイナスとなり、PP の射出成形分野、繊維分野が辛うじて前年の出荷を上回るに留まった。

ハ）輸　　出

アジア域内では、年末に向けての在庫調整を目的とした海外品の輸出志向が高まっている。このこともあり、国内からの輸出は低位な状態が続いている。前月比は伸び率としては LDPE、HDPE、PS はプラスだが、PP はマイナス。前年比では、LDPE、PP、PS の３樹脂は３カ月連続してマイナスとなっている。

ニ）在　　庫

在庫量は、前月に対して、LDPE、HDPE、PP で増加、PS のみは減少した。在庫率(季節調整済)は、LDPE、HDPE、PP、PS ともに上昇した。在庫水準としては、LDPE は高め、HDPE は極めて高め傾向が続いているほか、PP、PS は高め圏内に入りつつある。

	前月対比増減量（単位:トン）	季節調整済在庫率（単位:ヶ月）	
		１０月末	１１月末
LDPE	＋　５，０００	３．５	３．８
HDPE	＋　９，０００	４．０	４．５
P　P	＋１４，３００	３．１	３．４
P　S	▲　４，４００	１．９	２．１

以　上